

大会テーマ「多死社会と医療・福祉を考える」

日時：2021年12月4日（土）

開催方式：オンラインのみでの開催

日程（開催方式により変更があります）

10：00～12：00	一般演題
12：00～13：00	昼食休憩（幹事会）
13：00～13：40	総会
13：45～15：15	シンポジウム(前半)
15：15～15：30	休憩
15：30～16：45	シンポジウム(後半)

シンポジウム「多死社会と医療・福祉」

人口の高齢化に伴い、今後30年以上にわたって日本には多死社会が訪れます。現在では8割近くの人が病院で死を迎えています。今後は在宅や高齢者施設などでの死も増えるでしょう。ですが、これまで私たちは終末期医療を含めた「死」の問題と正面から向き合ってきたのではないのでしょうか。この問題に詳しいシンポジストの報告を聞きながら、医療・福祉関係者はこれからどのように多死社会へアプローチするべきか、議論できればと思います。

今回は、医療現場で日々、終末期の患者や家族に向き合いながら、新しい実践に取り組んでいる田中氏、天野氏と、教育者として多死社会を支える多くの介護人材を育ててきた川口氏から、報告をしていただきます。

コーディネーター 早川佐知子（明治大学）

趣旨説明「多死社会とその課題を議論する意義とは」

早川佐知子(明治大学)

報告①「当院における倫理サポーター養成講座の取り組みー地域における臨床論理活動をめざしてー」

田中武士(津生協病院・ソーシャルワーカー)

報告②「終末期医療の現状とACPの可能性」(仮題)

天野敬子(耳原総合病院・看護師)

報告③「多死社会を支える介護人材養成の課題」(仮題)

川口啓子(大阪健康福祉短期大学)

一般演題の募集について

研究大会では、自由演題を募集しています。自由演題の発表は、会員の方であればどなたでも可能です。院生の方からのご報告も歓迎いたします。応募される方は、(1)氏名・ふりがな、(2)所属、(3)演題名、(4)要旨(200字程度)、(5)パワーポイント使用の有無について、2021年9月13日(月)17:00(必着)までに担当役員：佐藤英仁(東北福祉大学)の以下の電子メールアドレス宛でご連絡ください。

E-mail: s-hide<@>tfu-mail.tfu.ac.jp (<@>を@に置き換えてください)

受付受理後、こちらから返信いたします。応募後、3日経過して返信がない場合は、大変お手数ですが、再度ご連絡をお願いいたします。演題の採否は、10月上旬にお知らせいたします。

発表時間(質疑応答を含む)は30分間を予定していますが、演題の応募状況によっては短縮されることもあります。詳細は、採択の連絡に合わせてお知らせします。

なお、一般演題の応募が多数の場合、分科会として実施する場合がございます。

***本年度の研究大会は、COVID-19の感染状況を考慮し、オンラインで開催とすることといたしました。最終的な開催方式・日程、参加申し込みの方法、参加費などについては、第2報でお知らせします。一般演題募集期間の延長など、学会ウェブとメールのみでお知らせする場合がありますので、適宜点検いただきますようお願いいたします。**

問い合わせ先：日本医療福祉政策学会事務局

606-8446 京都市左京区南禅寺北ノ坊町21番地永井ハウス
(有)セクレタリー・オフィス・サービス内
E-mail Address office<@>jshwp.org
(<@>は、@に置き換えてください)
Fax. (075)320-1701 Tel. (075)202-8105